

2月の Global Session のお知らせ

期日:2024年2月25日(日)10:30~12:00

場所:ガレリア3階 会議室 (ゲストはオンラインで神戸から発信)

ゲスト:濱田雅子さん(アメリカ服飾社会史研究会会長)

コーディネーター:亀田博さん

タイトル:「1920年代アメリカの服飾史」

主催:オフィス・コン・ジュント&亀岡国際交流協会

共催:アメリカ服飾社会史研究会

濱田雅子さんより

「1月1日に勃発した未曾有の能登半島大地震は、29年前の阪神・淡路大震災と重なってきますね。私の両親が住んでいた芦屋の山の中腹に建てられていたマンションが全壊し、両親は三重県の病院や軽費老人ホームなどに罹災者として受け入れていただき、筆舌に尽くしがたいほど、多くの心ある皆様のお世話になりました。能登半島の罹災者の皆様が、この度の苦難を乗り越えて、何としてでも生き長らえて行っていただくことを切に祈るばかりです。

今回のオンライン服飾講座は、濱田雅子の服飾講座『服飾からみた生活文化』シリーズ26です。第一次世界大戦を経て、アメリカの女性の社会的地位、女性の服装は大きく変化を遂げてゆきます。その変容の様相を多くの写真やイラストを通して、語らせていただきます。皆様のご参加をお待ちしています。」

オンライン服飾講座「1920 年代アメリカの服飾史」概要

全体構成

- I 参考文献
- II 1920 年代アメリカの歴史的背景
- III 新しいファッションー 1920 年代アメリカー
- IV 1920 年代のファッション雑誌とカタログ
- V アメリカン・デザイナー偽のレーベル
- VI シルク・ストッキング
- VII まとめ

I 参考文献

☆TIME LIFE BOOKS 編集部編 新庄哲夫訳『アメリカの世紀2 1910-1920』(西部タイム、1985)

☆TIME LIFE BOOKS 編集部編 常盤新平訳『アメリカの世紀3 1920-1930』(西部タイム、1985)

☆濱田雅子著『パリ・モードからアメリカン・ルックへアメリカ服飾社会史近現代篇』POD
出版 2019 年

Ⅱ 1920 年代アメリカの歴史的背景

アメリカの 1920 年代とは、どのような時代だったのでしょうか？

常盤新平氏は、こう言っています。

つわものどもの夢の跡

アメリカの 1920 年代は特異な時代だった。禁酒法があり、しかし、たくさんの人が酒に酔った 10 年間である。暗黒街が 闇酒を財源にして勢力を伸ばし、猟奇的な殺人やスキャンダルが相次いで起こった。一方で リンドバーグの大西洋横断単独飛行や、ベーブブルースの 1 シーズン本塁打 60 ポンという偉業があった。雑誌『タイム』も『リーダーズダイジェスト』も『ニューヨーカー』もこの時代に創刊された。”燃え盛る青春の時代”が 1920 年代だったと思う。

1920 年代がその前の 10 年代ともその後の 30 年代ともはっきり違っている。こんな時代は他になかった。(TIME LIFE BOOKS 編集部編 常盤新平訳『アメリカの世紀 3 1920-1930』西部タイム、1985 カバー内側)

Ⅲ 新しいファッション—1920 年代アメリカ—

ボーイッシュ・スタイルの誕生

1918 年 11 月に第一次世界大戦は終わりました。この戦争をつうじて、アメリカの女性は大量に社会に進出しました。そして女性は、政治的にも男性と同等に参政権を獲得し、さらに経済的にも職業をもって独立する者がめずらしくなくなっていました。婦人の服装生活のうえにも直接に影響をもたらし、衣服の形や着方が変化しました。すなわち、1920 年ごろまでにウェーストをゆるめた、いくぶん直線型のシルエットが流行していましたが、この傾向が強化されて、女らしさの特徴を故意にさけた衣裳デザインが全盛となりました。胸の膨らみを嫌い、腰を小さく緊め、スカートの丈を膝あたりか、それより上に短くして、男性をまねたいいわゆるボーイッシュ・スタイルがあらわれます。このスタイルは 1924 年ころまで流行し、25 年ころにいたって女性の衣服としての特徴を持ち始めますが、それでもなお、男装的スタイルを保っていました。スーツは大いに愛好され、短髪も、これと調和し、流行となりました。また、シルエットの変化に伴って下拵えのための下着にも特徴が見られるようになり、胸から腰にかけての直線型に整えるコルセットが普及しました。

ギャルソンヌ・スタイルの誕生

第一次大戦後のボーイッシュ・スタイルの傾向は 1920 年代の半ばころからさらに進んでギャルソンヌ・スタイルとよばれる形のものになります。男子風のシュミーズ(シャツ)に小さな蝶ネクタイを締め、短髪はポマードで固めたように整え、タキシード風の上衣を着用し、膝丈のショート・スカートををはき、流行の長いシガレット・フォルダーを形よく口に当てて、街頭で紫煙をくゆらせる、などというファッションが道行く紳士たちの目を引いたようです。一般的にいて、

ギャルソンヌ・スタイルの特徴は、ショート・スカートとロー・ウェストの上衣でもありました。この場合、絹の肌色の靴下とハイ・ヒールが組み合わせられたようです。

IV 1920 年代のファッション雑誌とカタログ

Ladies' Home Journal: LHJ はパリのファッションショーに関する記事を掲載していたので、普通の働く女性や主婦は当時ファッショナブルと考えられていたものを知っていました。ほとんどの女性誌は、すべてのファッションショーを調査するために特派員をパリに送りました。

American Vogue Magazine: ヴォーグパターンは、American Vogue Magazine のサービスとして 20 世紀初頭に最初に作成され、クチュリエパターンサービスのパイオニアであるように見えました。この情報から、1920 年代のシルエットが常に変化していることがわかります。

V アメリカン・デザイナー偽のレーベル

アメリカ人女性のパリのものに対する独創性のない執拗な要求は、詐欺につながった。このような詐欺は、今日では米国のほとんどの裁縫や製造業に浸透している。例えば、女性がいわゆる "Worth" のレーベルが縫い込まれた輸入ガウンを持っている場合、その確率は圧倒的であり、それは詐欺罪である」と述べ、今日のパリの偽レーベルの写真に掲載した雑誌を紹介させていただく。

VI シルク・ストッキング

1920 年代には「女性のファッションはシンプルで機能的なショートスカートへと変化し、仕事や娯楽による女性の外出が増えたことなども、ストッキングの消費を促進したのである」(鵜田章『ストッキングは昔、男性貴族のお洒落アイテムだった』p.27)

VII まとめ

アメリカにいる女性は、アメリカのマナーや慣習に合ったスタイルだけを受け入れる